

**2021年3月期  
決算説明資料**



**カーリットホールディングス株式会社**

**CODE : 4275**

1. 2021年3月期 決算概要

2. 2022年3月期 通期見通し

取締役兼常務執行役員 森下 貴

3. 今後の取り組み

代表取締役社長 金子 洋文

2021年3月期

決算概要

(単位：百万円)	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	差異 増減率
<b>売上高</b>	49,745	<b>45,537</b>	△4,208 △8.5%
売上原価	41,735	37,900	△3,834 △9.2%
販売費及び一般管理費	6,411	6,061	△349 △5.5%
<b>営業利益</b>	1,599	<b>1,574</b>	△24 △1.5%
<b>経常利益</b>	1,732	<b>1,770</b>	+38 +2.2%
<b>純利益</b>	690	<b>1,231</b>	+540 +78.3%

特別利益 555  
特別損失 1,238

従来「その他」に属していた、カーリット産業(株)・富士商事(株)・(株)総合設計・(株)エスディーネットワークを「エンジニアリングサービス」に移管。変更後の区分方法による比較。

	売上高			営業利益		
	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	差異	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	差異
(単位：百万円)						
化学品	22,027	<b>19,083</b>	△2,943	858	<b>744</b>	△114
ボトリング	17,591	<b>16,581</b>	△1,009	196	<b>77</b>	△119
産業用部材	8,005	<b>7,730</b>	△274	△40	<b>230</b>	+270
エンジニアリング サービス	3,084	<b>2,754</b>	△329	491	<b>390</b>	△101
報告セグメント計	50,708	<b>46,151</b>	△4,557	1,506	<b>1,442</b>	△64
<b>連結合計</b>	49,745	<b>45,537</b>	△4,208	1,599	<b>1,574</b>	△24

シリコンテクノロジー好調  
東洋発條工業構造改革

## 【化学品事業部門】

自動車用緊急保安炎筒	→	新車販売台数減少により新車向けは減少 車検向けと安全意識向上によるガラス破壊具付でカバーし、通期では前期並み
高速道路用信号焰管	→	上期は交通量減少、下期は東日本地域の豪雪等により横ばい
煙火関連	↘	全国各地の花火大会の中止による影響が通期にわたり継続し減益
受託評価試験	↘	上期は顧客の出張自粛、開発スケジュール遅延により減益 下期は移動制限の緩和、リモート試験サービスの導入により回復
塩素酸ナトリウム	↘	紙需要の減少が通期にわたり継続し減益
過塩素酸アンモニウム	↘	ロケット打ち上げ本数の減少により減益
亜塩素酸ナトリウム	↗	殺菌・消臭用途の増加により増益
電子材料・機能材料	↘	5G関連・パソコン向けは好調だったものの、 オフィス向け複合機・プリンター等の需要減少により減益



ガラス破壊具付自動車用緊急保安炎筒  
「ハイフレイヤープラスピック」

## 【ボトリング事業部門】

缶・ペットボトル飲料	↘	駅・自販機・コンビニ向けの販売低迷により減益
------------	---	------------------------

## 【産業用部材事業部門】

シリコンウェーハ	↗	半導体市場の活況により増益
----------	---	---------------

耐熱耐火物	↘	鉄鋼高炉向け需要の減少、高炉設備の工事延期により減益
-------	---	----------------------------

ばね・座金製品	↗	上期は自動車・建機の販売低迷により減販したものの、構造改革により増益
---------	---	------------------------------------

## 【エンジニアリングサービス事業部門】

設備工事	↘	前期にあった大型プラントの受注がなく減益
------	---	----------------------

塗料販売・塗装工事	↗	塗料の増販、新規塗装品の獲得により増益
-----------	---	---------------------

構造設計	↗	受注堅調を維持し増益
------	---	------------

	売上高			営業利益		
	2021年3月期 計画	2021年3月期 実績	差異	2021年3月期 計画	2021年3月期 実績	差異
(単位：百万円)						
化学品	20,500	19,083	△1,417	950	744	△206
ボトリング	16,500	16,581	+81	50	77	+27
産業用部材	7,800	7,730	△70	200	230	+30
エンジニアリング サービス	2,600	2,754	+154	300	390	+90
報告セグメント計	47,400	46,151	△1,249	1,500	1442	△58
<b>連結合計</b>	<b>47,000</b>	<b>45,537</b>	<b>△1,463</b>	<b>1,500</b>	<b>1,574</b>	<b>+74</b>



# 2022年3月期 通期見通し

※2022年3月期の期初より「収益認識に関する会計基準」等を適用  
 (2021年3月期上期・通期の売上高は上記を適用したと仮定して算定した参考値)

(単位：百万円)		2021年3月期 実績	2022年3月期 予想	差異	増減率
		売上高	上期	13,470	14,500
	通期	29,631	31,000	+1,369	+4.6%
営業利益	上期	205	500	+295	+143.2%
	通期	1,574	1,800	+226	+14.3%
経常利益	上期	313	550	+237	+75.7%
	通期	1,770	1,900	+130	+7.3%
当期純利益	上期	135	350	+215	+158.5%
	通期	1,231	1,300	+69	+5.6%
期末配当	1株当たり	12円	12円	—	—

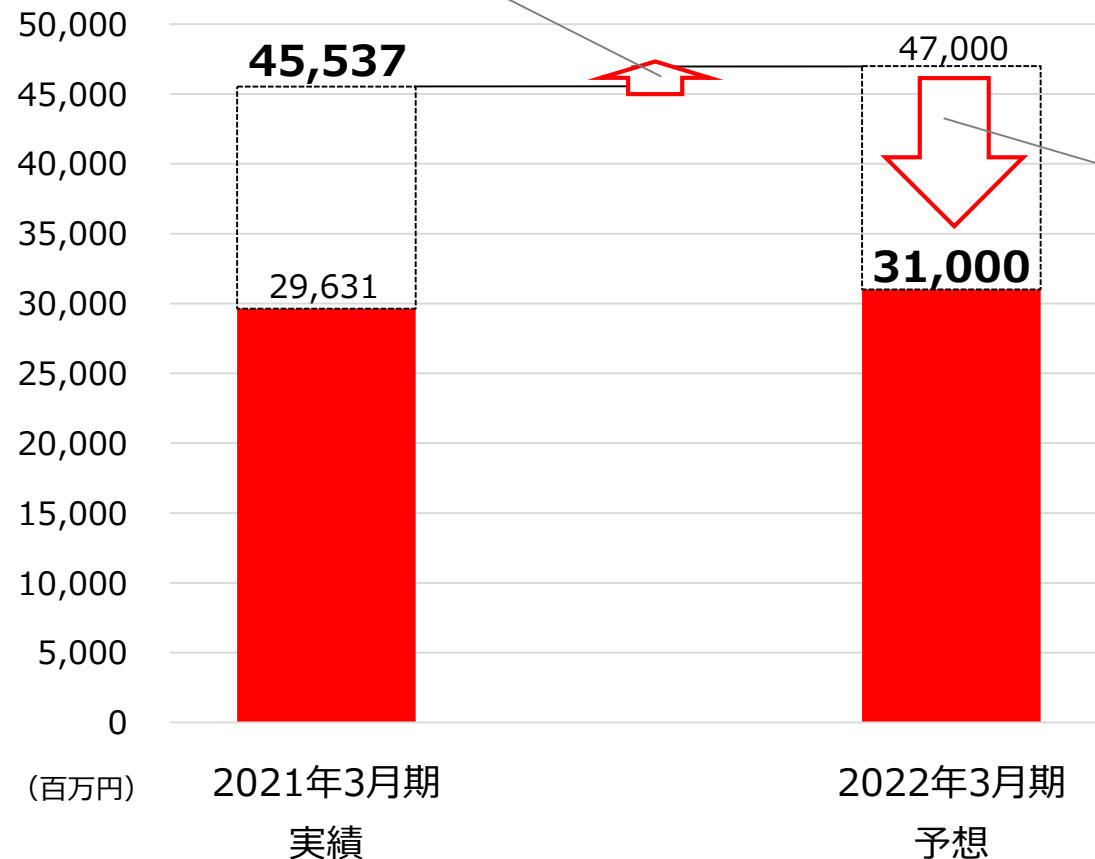
- ・自動車関連等が増販
- ・電子機器・半導体関連も好調を継続
- ・煙火関連の回復

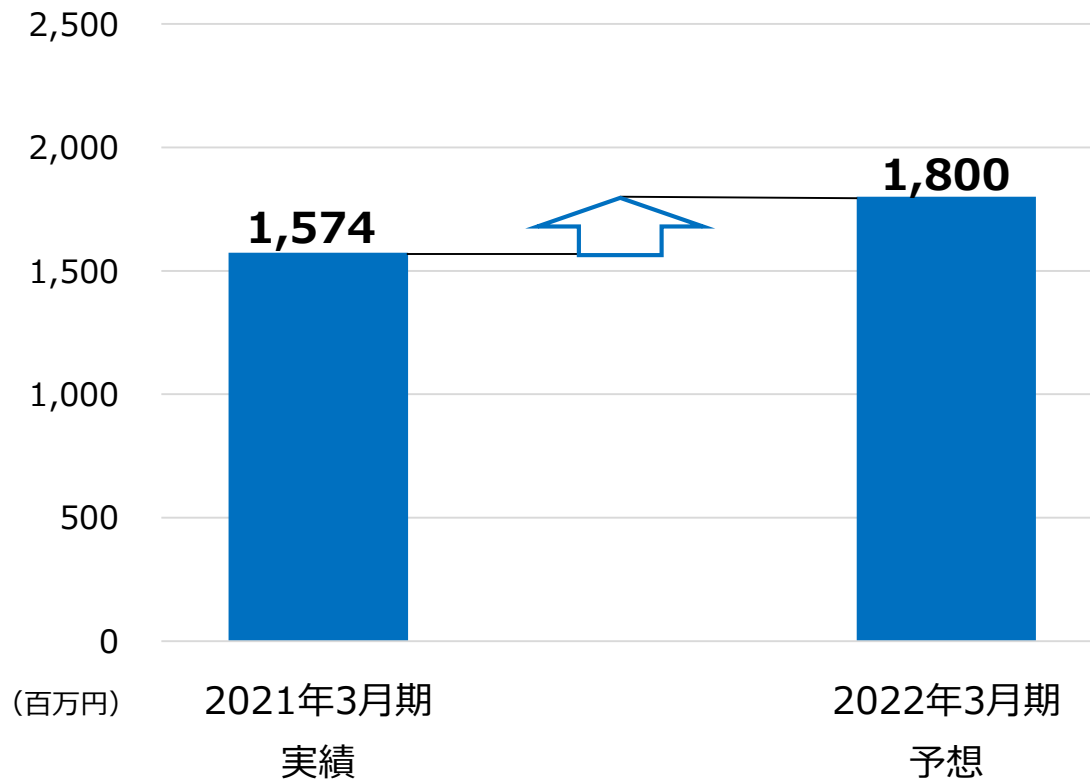
“「収益認識に関する会計基準」等”適用

- ・売上高・売上原価が減額される
- ・利益への影響は無し

該当する当社の商流

- ・代理人取引  
売上から売上原価を引いた純額を計上  
化学品事業部門 △4,000百万円
- ・有償支給取引  
有償支給を除外し、加工賃のみを計上  
ボトリング事業部門 △12,000百万円
- ・変動対価・工事進行基準については軽微





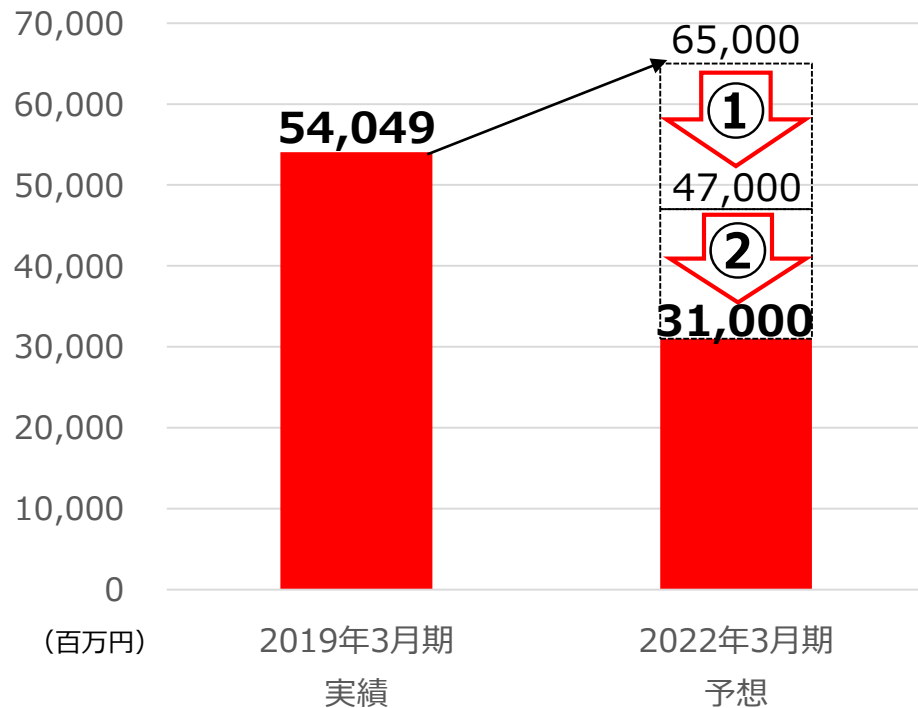
**化学品**  
前期比微増

**ボトルング**  
コロナ影響が非常に大きかった前期と比べ回復の見込み

**産業用部材**  
半導体市場が活況  
自動車・建機の好調継続

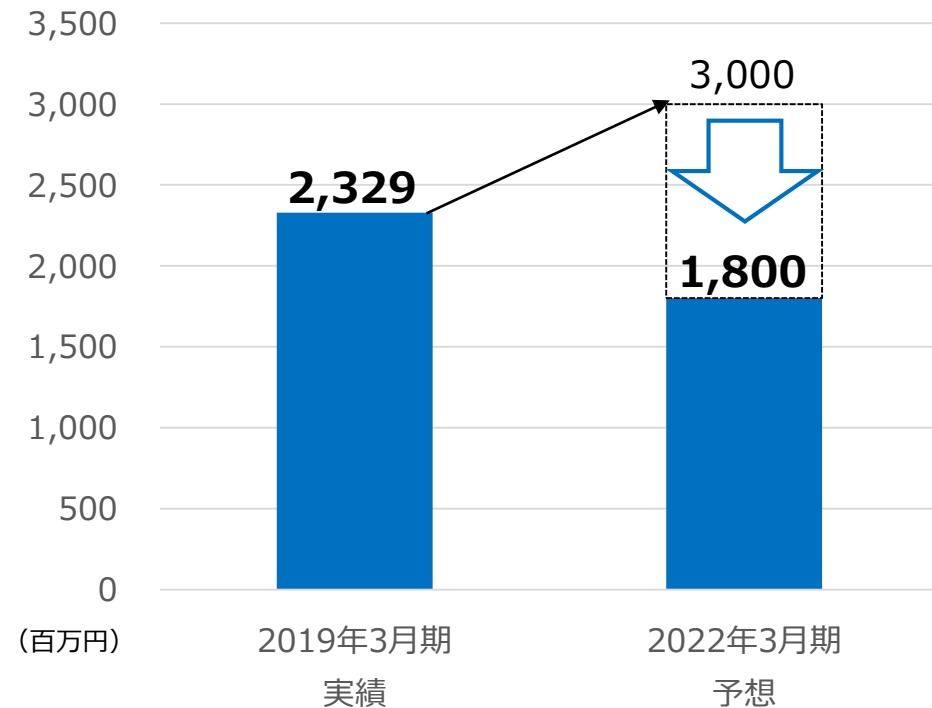
【売上高】

- ①ボトリング新規製造ライン建設の中止  
新型コロナの影響等による減販
- ②“「収益認識に関する会計基準」等”の適用



【営業利益】

- 新製品上市計画の未達成
- 新型コロナ・米中摩擦による売上高減少により減益



	売上高			営業利益		
	2021年3月期 上期実績	2022年3月期 上期計画	差 異	2021年3月期 上期実績	2022年3月期 上期計画	差 異
(単位：百万円)						
化学品	7,236	7,500	+264	234	300	+66
ボトリング	1,994	2,000	+6	△218	10	+228
産業用部材	3,493	4,000	+507	49	130	+81
エンジニアリング サービス	1,054	1,300	+246	57	100	+43
<b>連結合計</b>	13,470	<b>14,500</b>	+1,030	205	<b>500</b>	+295

※2021年3月期の売上高は  
 “「収益認識に関する会計基準」等”を適用したと仮定して算定した参考値

	売上高			営業利益		
	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期計画	差 異	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期計画	差 異
(単位：百万円)						
化学品	15,576	16,000	+424	744	800	+56
ボトリング	4,239	4,150	△89	77	300	+223
産業用部材	7,627	8,000	+373	230	400	+170
エンジニアリング サービス	2,802	3,500	+698	390	300	△90
<b>連結合計</b>	29,631	<b>31,000</b>	+1,369	1,574	<b>1,800</b>	+226

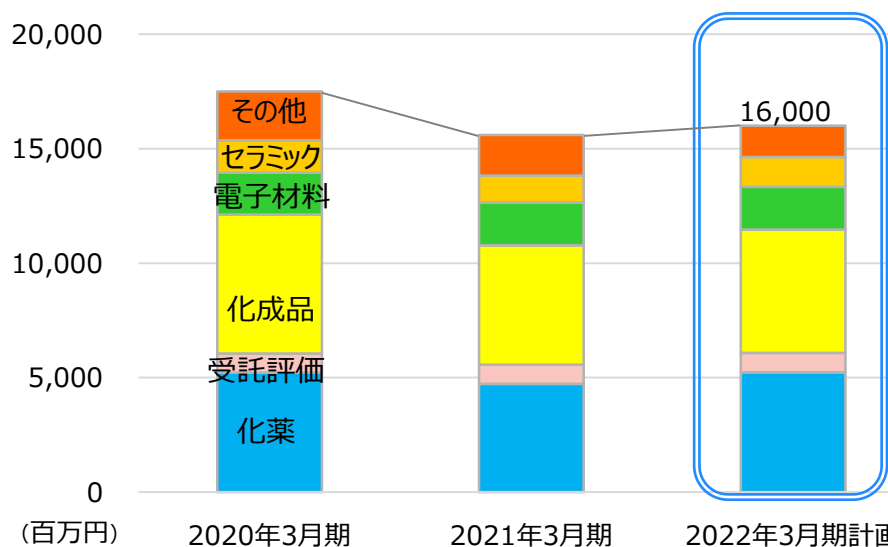
※2021年3月期の売上高は  
「収益認識に関する会計基準」等を適用したと仮定して算定した参考値

# セグメント別

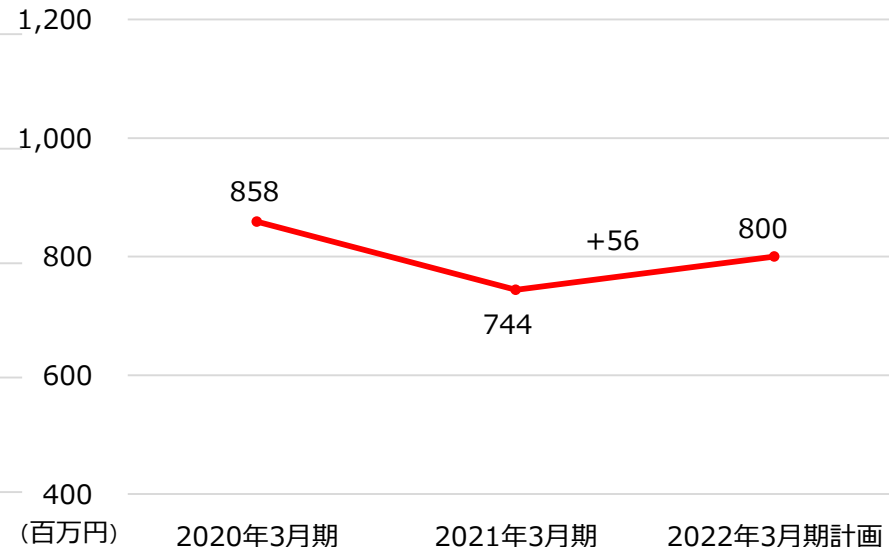
## <化学品事業>

緊急保安炎筒（発炎筒）	前期は新型コロナの影響で車検の延長等の影響を受けたが今期は回復
煙火関連	需要低迷は続くが、前期よりは回復
受託評価試験	電池試験は堅調 危険性評価試験の稼働回復、顧客の出張自粛に対応するリモート試験の更なる拡販を目指す
塩素酸ナトリウム（紙パルプ漂白剤）	需要低迷は続くが、前期よりは回復
過塩素酸アンモニウム（ロケット固体推進薬）	減販
電子材料関連	パソコン・通信機器の需要増加、5G関連への採用により増販
機能材料関連	オフィス複合機向けのトナー電荷調整剤等の需要低迷により減販
その他	「収益認識に関する会計基準」等の適用により売上高減少

【売上高（参考）】



【営業利益】



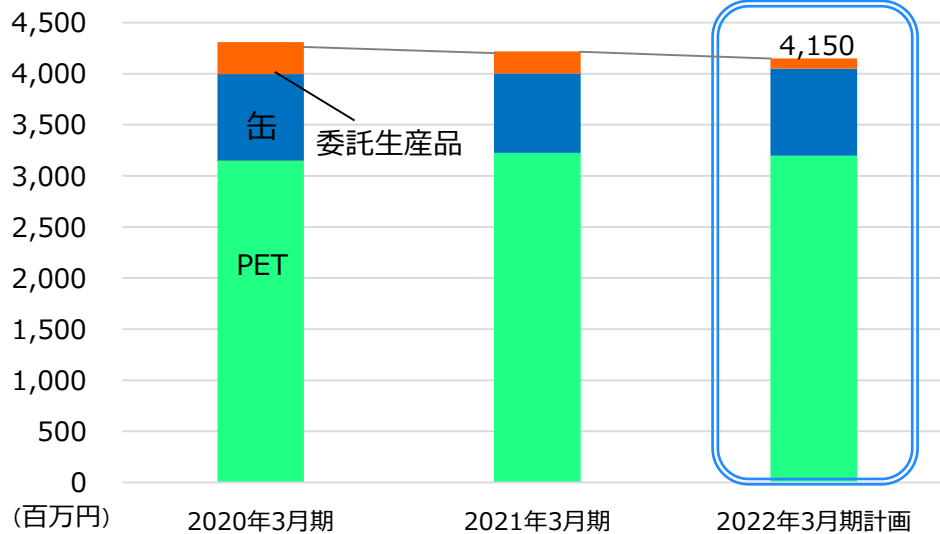


# セグメント別

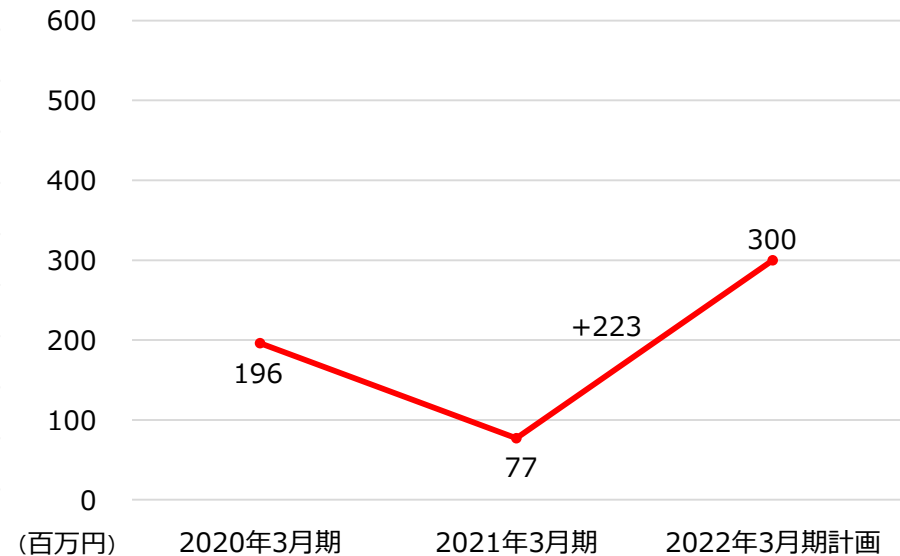
## <ボトリング事業>

PET（駅・自販機・コンビニ向け）	前期は人の移動が大幅に抑制され大きく減少 今期は緩やかな回復を見込む
PET（スーパー・量販店向け）	前期は好調 今期は前期に比べ減少
全体見通し	自社生産品の売上高は前期より微増、利益は原価低減により回復
新規製造ライン建設	今中期経営計画での設備投資計画だったが、現下の状況を検討し中止

【売上高（参考）】



【営業利益】

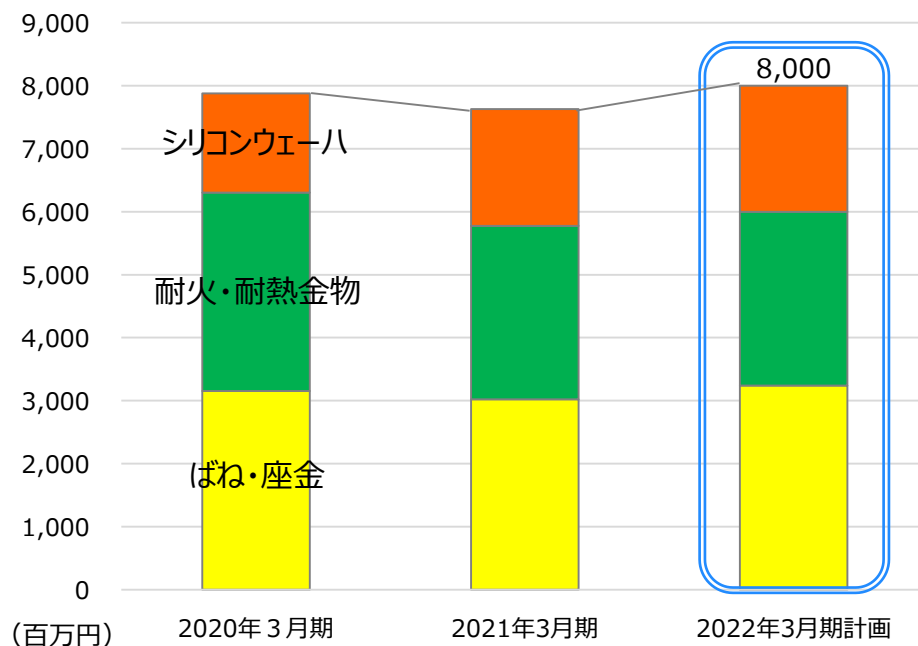


# セグメント別

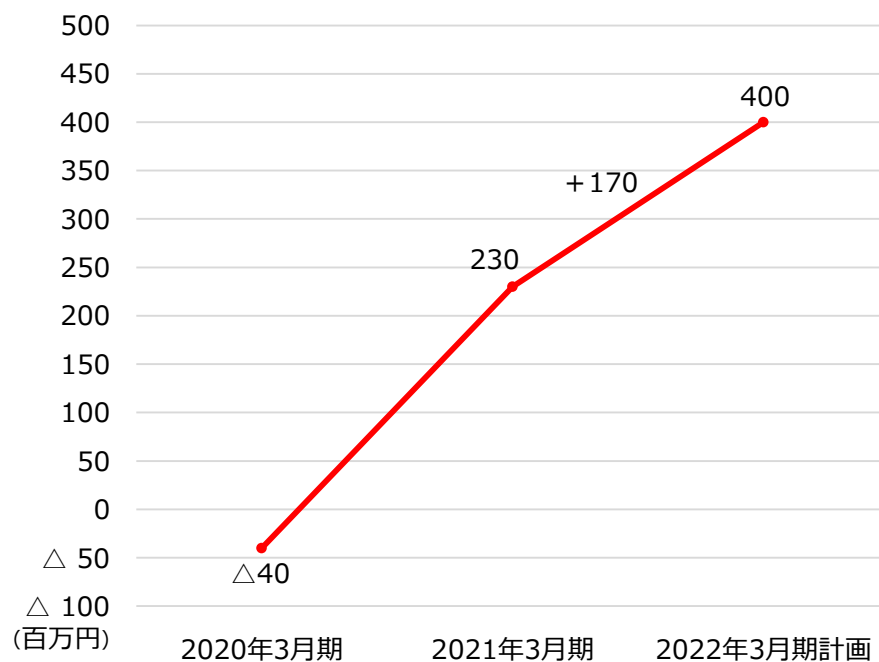
## <産業用部材事業>

半導体用シリコンウェーハ（シリコンテクノロジー）	半導体需要の好調継続により増収増益
耐熱耐火物（並田機工）	炉内金物は震災復興の需要増がひと段落し前期並
ばね・座金製品（東洋発條工業）	自動車・建機向けの好調により増収、収益改善により増益

【売上高（参考）】

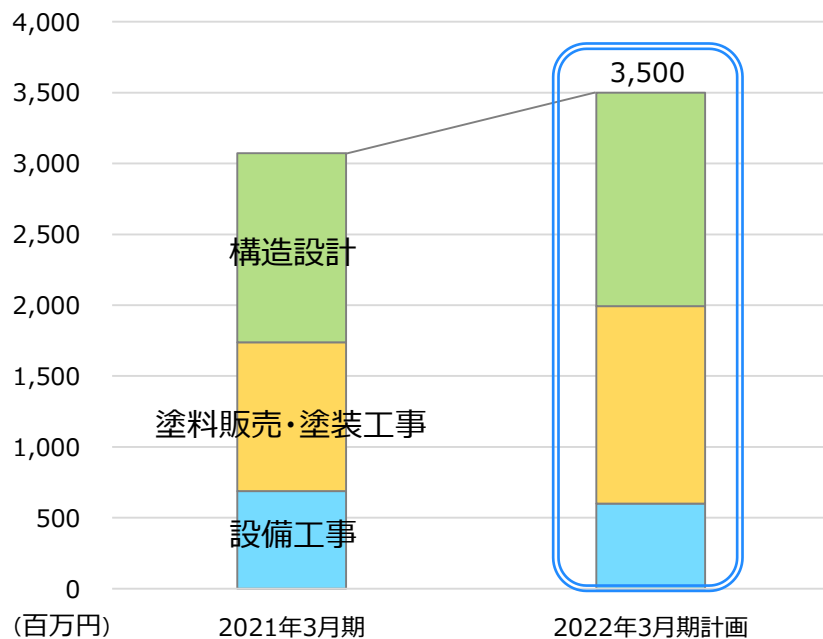


【営業利益】

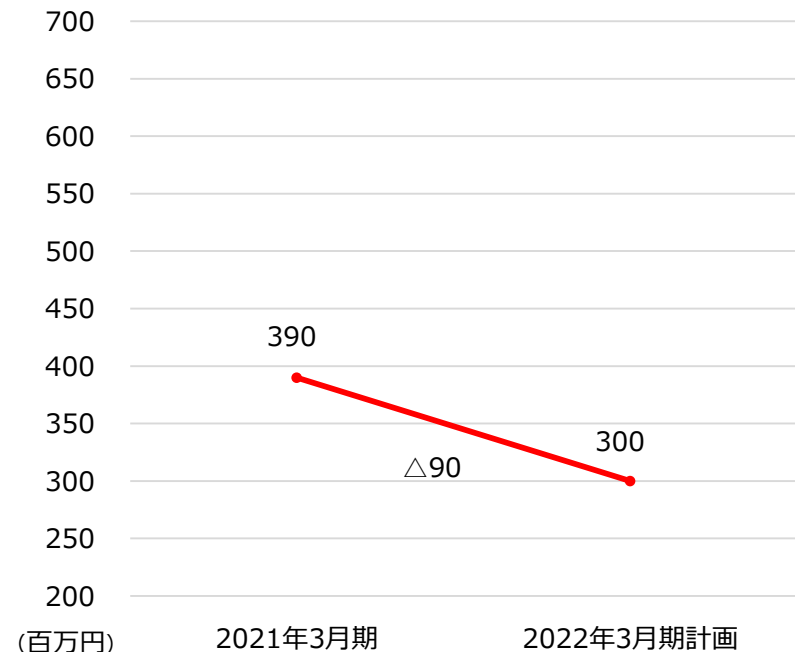


設備工事（カーリット産業）	工事物件の減少により減収減益
塗料販売・塗装工事（富士商事）	需要の好調が継続し増収 利益面では設備投資に伴う償却費の増加により前期並み
構造設計（総合設計・SDネットワーク）	好調だった前期に比べ減益

【売上高（参考）】



【営業利益】



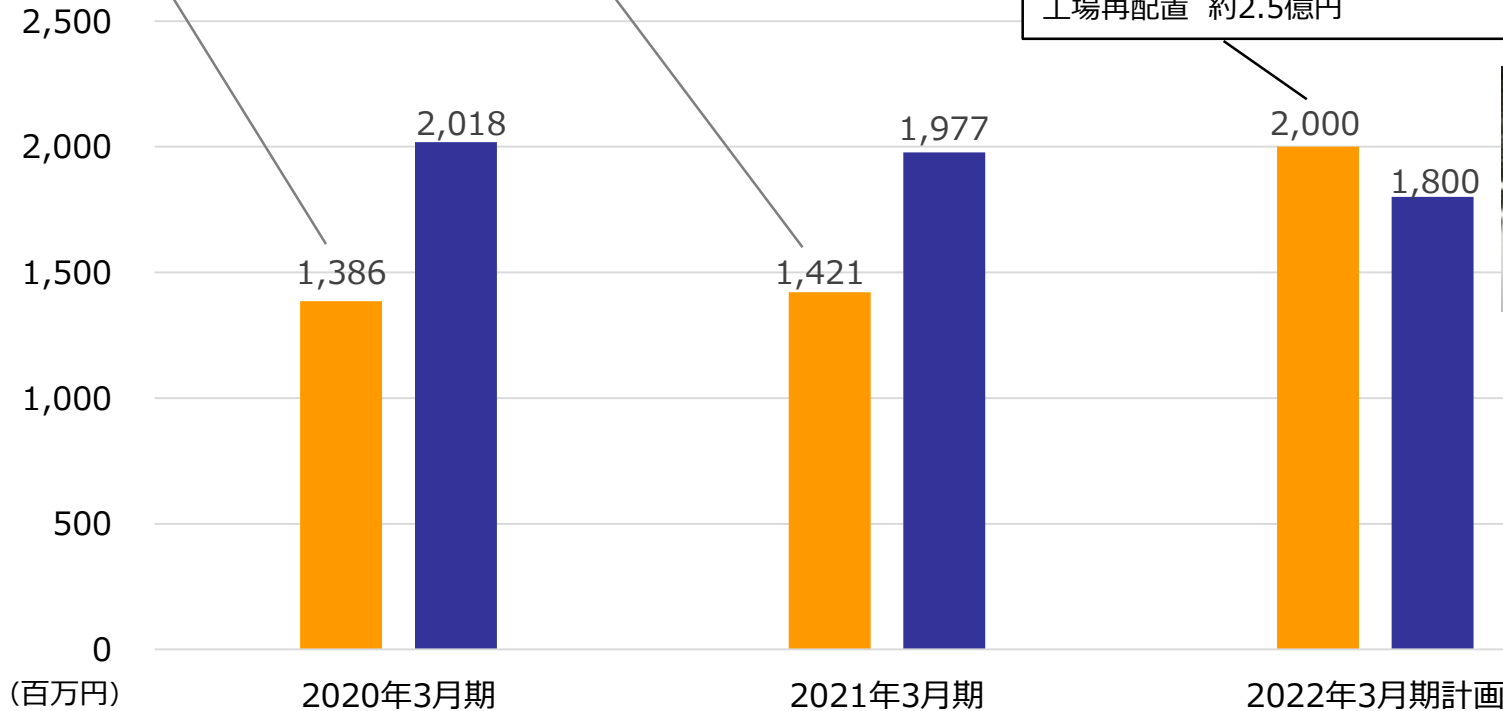
**通期見通し**

## &lt;設備投資・減価償却&gt;

ボトリング  
 製造ライン設備増強・更新 約3億  
開発  
 推進薬研究施設 約8億円

開発  
 推進薬研究施設 約2億円  
ボトリング  
 製造ライン設備増強 約1億円  
その他  
 設備更新・生産効率向上投資 等

開発  
 推進薬関連、他研究設備 約3億円  
化学品  
 受託評価試験 約1.5億円  
産業用部材  
 シリコンテクノロジー高平坦度ウェーハ設備 約1億円  
エンジニアリングサービス  
 富士商事新ライン導入 約2億円  
 工場再配置 約2.5億円

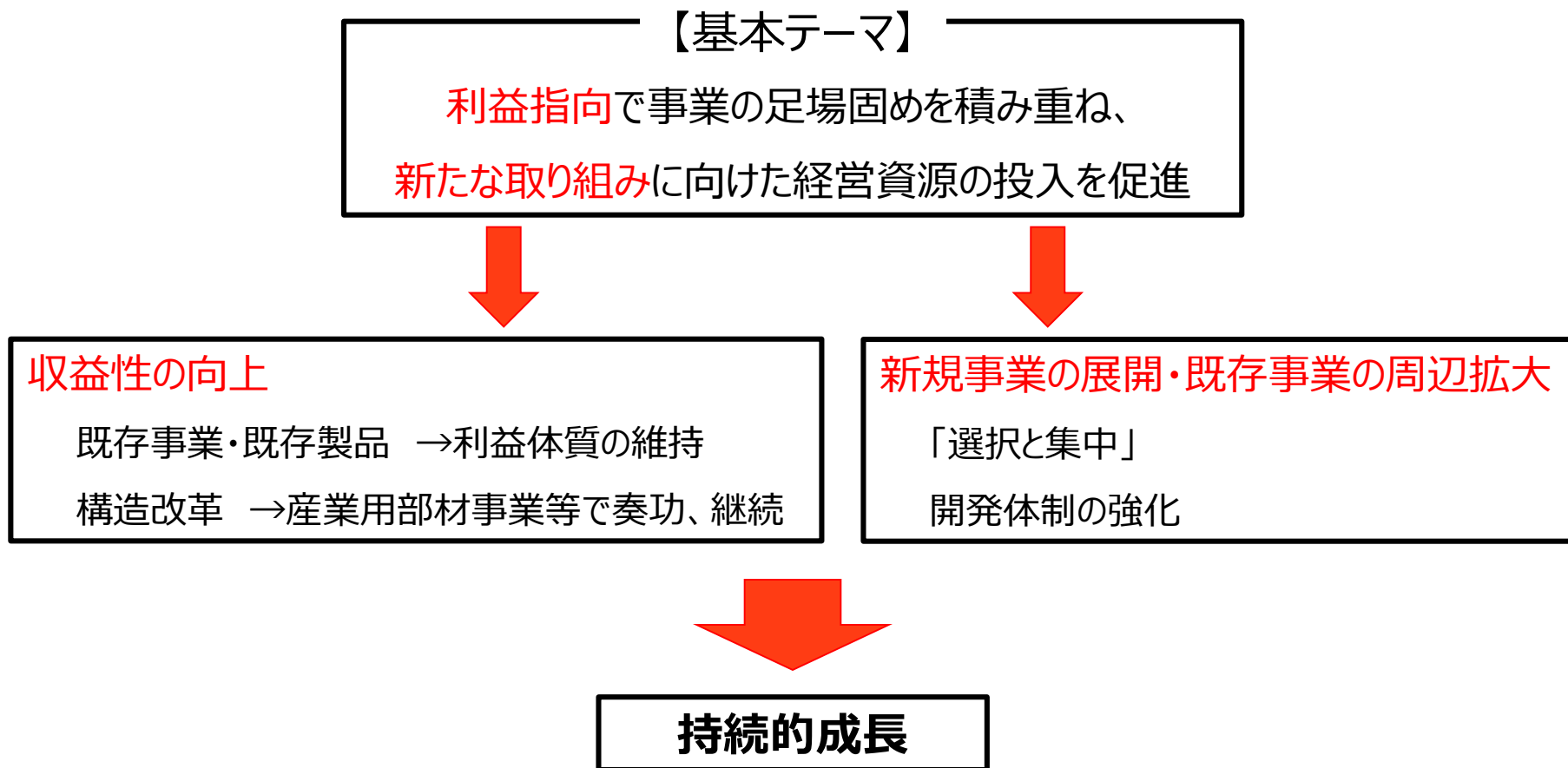


大型塗装設備

■ 設備投資  
■ 減価償却

# 今後の取り組み

中期経営計画「ワクワク2.1」(2019年度～2021年度)



R&Dセンターを日本カーリットに移管

- ・化学品分野への特化
- ・開発・製造・販売の一体化

新事業戦略室を発足

- ・グループ全体を包括した開発に注力



コア技術を踏まえ、  
新たな事業展開・既存事業の周辺拡大を加速化

## 蓄電デバイス・電極材料

次世代エネルギー技術の  
研究開発で環境問題に貢献する

超小型・超大型蓄電デバイス部材の開発



## 半導体関連事業

技術革新を支える半導体関連事業で  
「Society 5.0」を実現する

高性能化・集積化・低コスト化に対応した  
半導体加工部材の開発



## ヘルスケア材料

バイオベースマテリアルをもとに  
ヘルスケア材料を提案、  
公衆衛生と脱炭素社会へ貢献する

ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた、  
天然素材を使った抗菌・抗ウイルス材料の開発



## 新規機能材料

電気・光を制御する有機機能材料  
でIoT技術のプロダクトイノベーション  
を支える

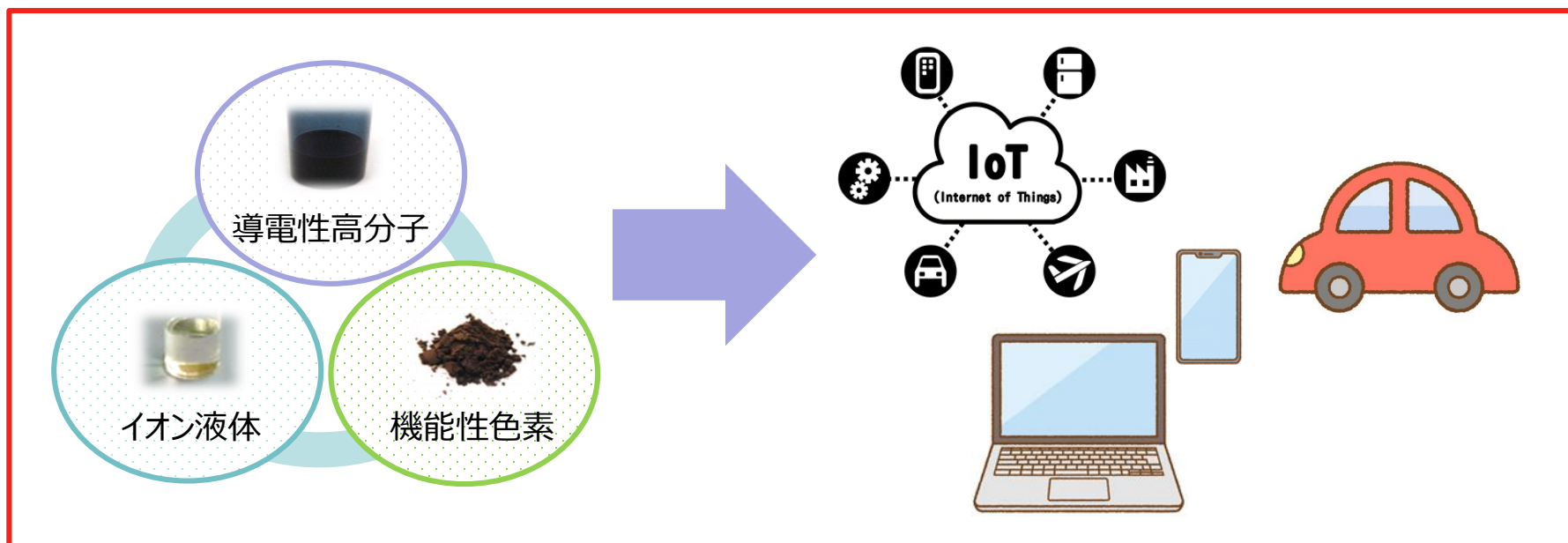
ゴムなどの絶縁材料に導電性を持たせる新規材料の開発





## 機能性材料（日本カーリット）

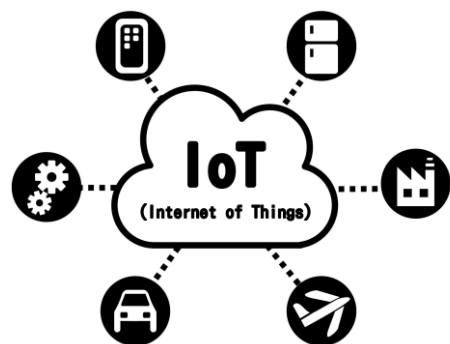
- ・導電性高分子・イオン液体・機能性色素などの機能性材料の開発に注力
- ・機能性材料のユーザビリティのため、ナノ分散方法や複合化技術も同時に開発
- ・5G用コンデンサー・ディスプレイの電気制御に貢献
- ・住宅・自動車などの赤外線遮断に応用



## 蓄電デバイス向け材料（日本カーリット）

- ・当社独自の導電性ポリマー電解質・電解液材料
- ・キャパシタなどの蓄電デバイスへの展開
- ・5G通信基地局・サーバー・車載（自動運転など）

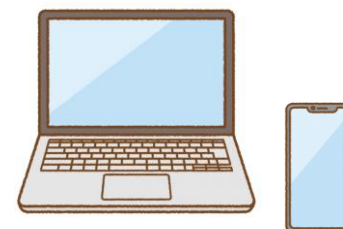
7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



IoT・5G通信関連



蓄電デバイス



デバイス搭載機器



車載IoT関連

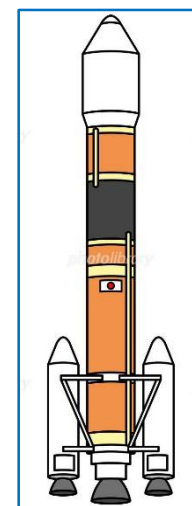
### 日本MA-T工業会に加盟（日本カーリット）

- ・日本発の革新的な酸化制御技術（**MA**Tching **T**ransformation Systemの略）
- ・MA-T<sup>®</sup>を利用した殺菌・消毒剤は、新型コロナウイルスに対する殺菌効果あり
- ・感染制御分野においても機能性が期待される
- ・亜塩素酸ナトリウムを主成分とした原料を供給
- ・MA-T<sup>®</sup>の幅広い用途展開・普及をサポート



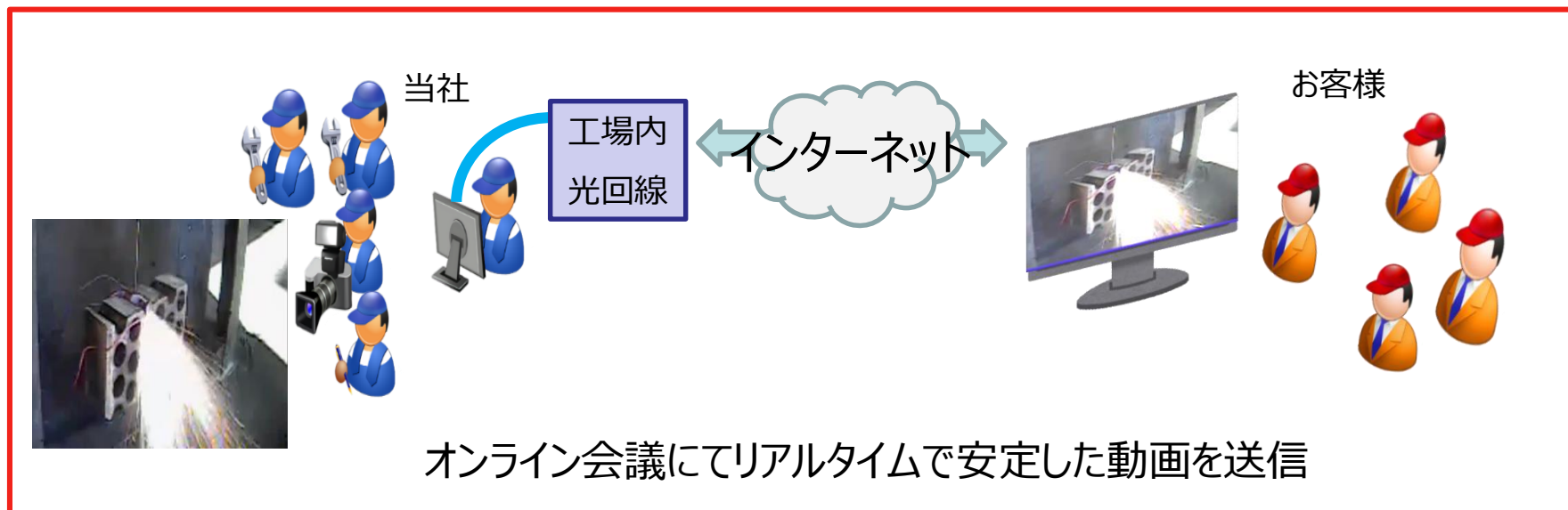
### ロケット推進薬（日本カーリット）

- ・固体推進薬原料（過塩素酸アンモニウム）の国内唯一のメーカーとしての技術と経験を活用
- ・来年度のフライトモデルへの搭載採用に向け開発中



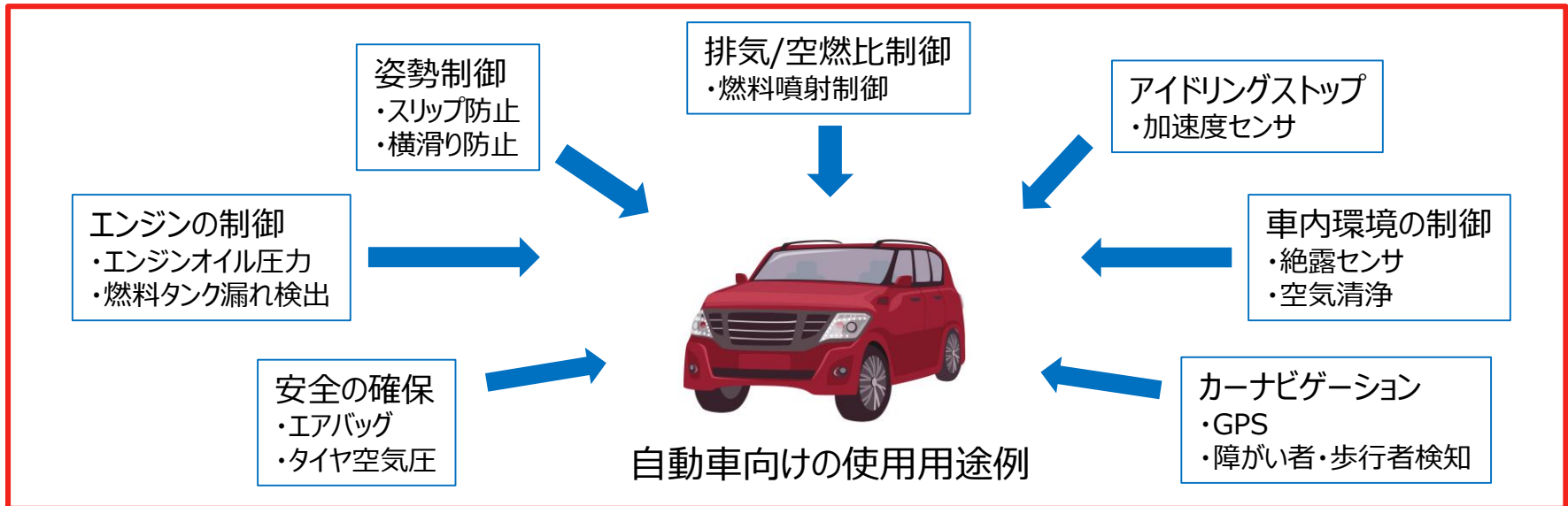
## 危険性評価リモート試験（日本カーリット）

- ・2020年12月から開始
- ・コロナ禍での顧客の出張自粛による売上高減少への対応策
- ・顧客の移動時間・出張費用の削減、立ち合い人数の制限の回避へ
- ・通信環境を整備し、危険性評価試験全体の売上の20～30%まで高めることを目指す
- ・蓄電池の安全性向上に寄与



## MEMS向け高平坦度ウェーハ（シリコンテクノロジー）

- ・MEMS（微小電気機械システム）の材料として使用
- ・MEMS市場は年平均7%以上伸長の見込み
- ・用途は様々なセンサーであり、代表的な製品として自動車・スマートフォン等
- ・小口径シリコンウェーハをインゴット製造から研磨まで一貫生産体制の強みを活かして参入



ESG

利益ある成長



次期中期経営計画の策定において  
「社会」と「会社」の持続性ある相互成長を目指す

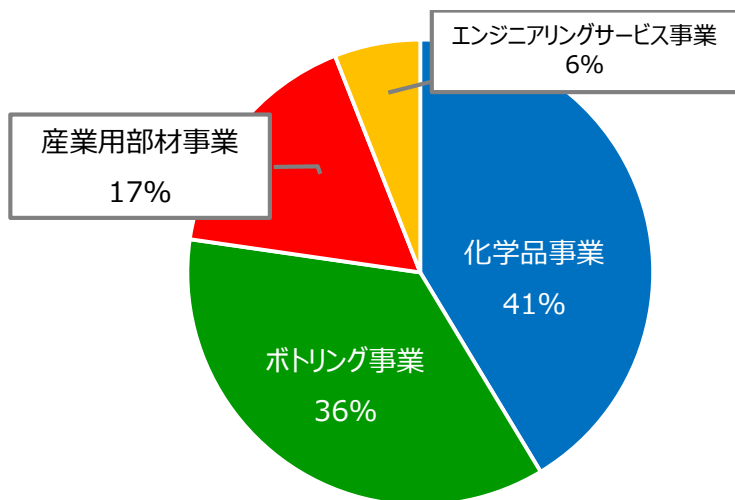
IRに関するお問合せ先：  
カーリットホールディングス株式会社  
広報・ESG推進室

メール：[pr@carlit.co.jp](mailto:pr@carlit.co.jp)

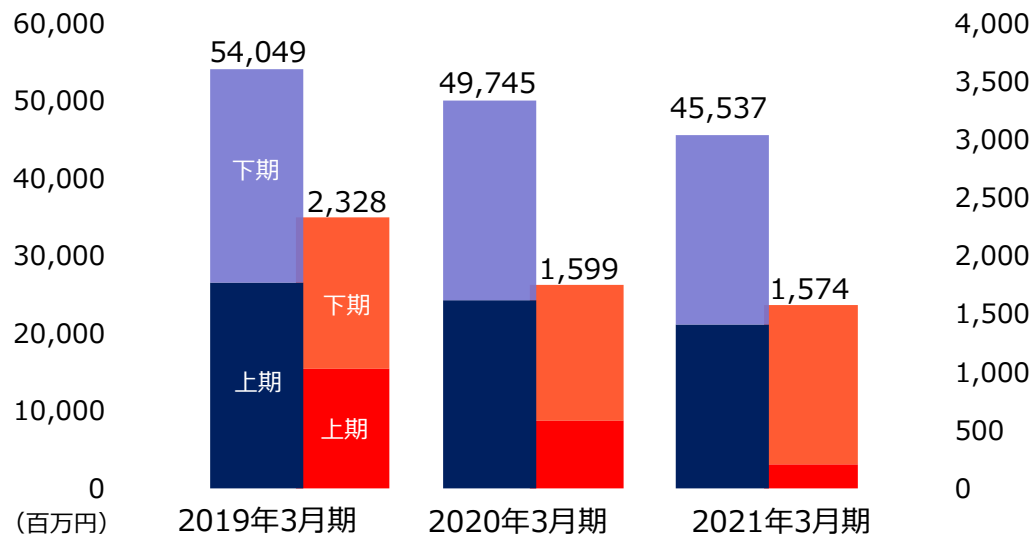
本資料は当社の事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は決算データ・会社データについては断りのない場合は2021年3月31日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された見通し等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

本 社	東京都中央区京橋一丁目17番10号	代表者	代表取締役社長 金子 洋文
創 業	1918年	設 立	2013年10月 1日
資本金	2,099,530,000円	従業員数	1,072名 (連結)
発行済株式数	24,050,000株 (1 単元100株)	単元株主数	28,624名

<2021年3月期 売上高構成比>



<売上高・営業利益推移>





(単位：百万円)

	2020年 3月31日	2021年 3月31日	差異		2020年 3月31日	2021年 3月31日	差異
<b>資産の部</b>				<b>負債の部</b>			
現金及び預金	4,730	5,547	817	支払手形及び買掛金	5,177	5,310	133
受取手形及び売掛金	10,239	10,399	160	有利子負債	9,566	7,896	△1,670
棚卸資産	4,461	3,949	△512	その他負債	7,971	8,770	798
その他流動資産	1,108	849	△258	<b>負債合計</b>	<b>22,715</b>	<b>21,976</b>	<b>△738</b>
有形固定資産	20,542	19,874	△667	<b>純資産の部</b>			
無形固定資産	107	83	△23	株主資本	23,613	24,597	984
投資その他の資産	7,735	10,248	2,513	その他の包括利益 累計額等合計	2,596	4,379	1,783
				<b>純資産合計</b>	<b>26,209</b>	<b>28,977</b>	<b>2,767</b>
<b>資産合計</b>	<b>48,924</b>	<b>50,953</b>	<b>2,028</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>48,924</b>	<b>50,953</b>	<b>2,028</b>

(単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,899	4,193
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,145	△1,135
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,424	△2,187
現金及び現金同等物の増減額	336	873
現金及び現金同等物の期末残高	4,622	5,496